

★パートナーとしての政治家

司会…諸石さんは障害のある人たちはどんなことを必要としていると思いますか？

諸石…仕事帰りに、地域の人みんなが集まれる場所を必要としています。僕はグループホームの近所にあった小料理屋さんで議員さんにたまま会ったことがあります。そこで政治の話をしたら、「何かわからないことがあったらここに電話してください」って名刺を渡されました。「週に1回、この会議室で話し合いをしているので来てください」とも言われました。そういうきっかけがあるといい。

米田…街頭演説のときに握手をするだけじゃ、議員さんがどんな人なのかわからないからね。一緒に歩いたりとか、そういうことができればもっといいだろうね。

司会…障害のある人と接するとき、他人事として関わるんじゃないかと一緒にやっついていこうというパートナーとしての顔を持ってほしいということですね。

米田…そうそう。議員さんが僕らの話を聞くとときに、もう少し障害者に近づいた気持ちで話をしてくれるといいと思うな。そうすると自然と「障害のある人の生活に何が足りていないか」がわかるよ、きつと。もし、何なら施設やグループホームに泊まってみればいいのにな。

小沼…障害のある人と議員さんが何カ月間か暮らしてみるのが理想！障害のある人にとって何が難しいのか、困っているのかがわかるだろうからね。実際に体験してもらわないと、結果的に理解してもらえない気はする。

和田…確かに、障害のある人がどんな暮らしをして、何に困っているかを知っている議員はほとんどいないでしょうね。

米田…いろいろいるところを廻って、お互い触れ合ってみればいいんだよ。僕たちも自分の気持ちを代弁してもらえるように「今日、飯食わしてよ！」って感じでどんどん触れ合っていけばいいと思う。

江口…そうやって気軽に、みなさんの意見を聞いてくれる議員を近くに置いておくことが大事だと思います。「仲のいい議員を何人か作るぞ」という気持ちで、選挙にもかかわってもらえればいいんじゃないでしょうか。

和田…議会では、議員の半分の人が賛成すれば決まりを変えられることができます。だから、僕ら議員と会うことをきっかけにして、「困っているこ

と」「してほしいこと」を訴えてほしいです。

江口…出合いの場を作ることももちろん大事。さらに言うと、「議員を教育する」ことも大事だと思います。皆さんが抱えている問題をその議員に教え込まないといけない。障害のある人がどんなことで困っているのかを知ること、議員は障害のある人にとってパートナーなれます。

和田…議員が障害のある人のパートナーになることはお互いにとってメリットがたくさんある。この3人の議員だけではなく、もっとたくさん議員を障害のある人が教育して、パートナーにしてほしいと思います。

★フイードバックの重要性

諸石…俺の知り合いで、養護学校に通う子どもを持つお母さんが何人かいます。そのお母さんたちは議員さんと話をしたがっているけど、誰に連絡したらいいのかわからない。そうしたときに、俺が神奈川県の子どもの議員の連絡先が載っている一覧を持っていけば、教えてあげられるじゃないですか。それで、そのお母さんたちがまた別のお母さんに情報を伝えれば。そうすれば、どこに情報がどんどん広まっていくと思います。議員さんと話したいと思っている人をたくさん集めて、議員さんと話をする場を僕は作っていきな。

江口…ぜひやってみてください！役所に電話すれば、議員の連絡先の一覧はすぐもらえますから、議員に連絡してみてください。そうすれば、話し合いの場は作れるはず！

諸石…それで話し合いあったとしますよね。でも、その話し合った内容はどこにいくんですか？話し合った内容は本当に実現されているのか、どうやって知ればいいんですか？

藤野…例えば、僕は市議会議員として、年に4回、議会で発言する機会があるんです。そこで皆さんから聞いた話を「こうしてはどうですか？」「こうするともっとよくなります」と市長に提案しています。議会がないときでも、行政の人にどんなことを変えてほしいかを話しています。でも、その内容を皆さんにフイードバックする機会があったほうがいいですよ。

諸石…もし話し合いが終わっていなくても、途中経過を伝えてくれれば、「まだ全部は決まっていけないけどちゃんと話は進んでいるんだな」って納得できるから。話し合った結果はちゃんと伝えてほしいよ。